

あなたの「げんき」と「えがお」のために  
みんなでちからをあわせます

2026年度  
看護職員募集案内



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構

神奈川県立こども医療センター

# あなたの「げんき」と「えがお」のために みんなでちからをあわせませす

## こどもの健康の回復及び増進と、 福祉の向上のため、最善の医療を提供します。

神奈川県立こども医療センターは、1970年に設置された小児専門病院です。こども専門病院、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設の3つの施設からなり、病気や障がいのあるこどもたちに医療と福祉を一体として提供している総合医療・福祉施設です。

総合周産期医療センターとして認定されており、妊娠期(胎児期)から小児期、成人移行期に至るまで、こどもの成長発達に応じて、連続した医療を行っています。

また、小児がん拠点病院、アレルギー拠点病院、メディカルゲノムセンターとしても機能しています。各専門診療科、医療技術部門、看護局、施設が協力してチーム医療を行うとともに、こどもの発達に則した包括医療、高度医療を提供しています。センター敷地内には県立横浜南支援学校があり、入院・入所中のこどもたちも教育を受けることができます。

- 総 長：黒田 達夫
- 診 療 科：30科
- 病 床 数：430床
- 外来患者数：1日平均約700人
- 職 員 数：約900名(常勤のみ)  
〔医師：110名 看護師：600名 その他：190名〕



## こどもの最善の利益を考え、看護を提供します

- 16病棟、中央手術室、外来、看護教育科の計19看護単位があります。
- 看護提供方式はパートナーシップ・ナーシング・システム®を導入しています。
- 患者さんやご家族とともに看護師が話し合い、情報を共有しながら看護計画を立案・実施します。
- 系統的な研修、専門性を深められるような教育体系を作り、キャリア支援に努めています。
- 専門看護師や認定看護師が、看護外来、救急医療、集中ケア、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、感染対策等にリーダーシップを発揮しています。
- 勤務体制は、2交替・変則勤務体制を併用し、働きやすい勤務体制を整えています。
- 保育士を配置し、看護師と連携しながらこどもたちの発達段階に合わせた関わりを大事にしています。



## こどもの「懸命さ」に触れ、自分自身の成長へ

**“あなたの「げんき」と「えがお」のために みんなでちからをあわせませす”**

これは、「わたしたちのちかい」という、こどもに向けた当センターの理念です。小児期発症の疾患には、辛い治療や長期にわたる療養を続けなければならないことも多くあります。療養を続ける中で「えがお」や「げんき」になる理由は、こども一人ひとりで異なります。そして、成長発達を続けるこどもには、多職種で協働する包括的な医療が必要となります。「わたしたちのちかい」には、「一人ひとりの最善を考え、チームで医療を提供していく」という意味が込められています。

わたしたちは、こどもとご家族が困難を乗り越え、地域・社会の中で自分らしく成長発達していけるような看護の提供に努めています。看護の仕事は、辛く厳しく感じることもあるかもせませんが、こどもの懸命さに触れることで、自分自身も成長します。小児・母性看護師として、こどもの「げんき」と「えがお」のために一緒に働きましょう。



副院長兼看護局長  
樋口 美佳

## 外科系病棟

診療科別に3つの病棟があり、検査や手術を受ける患者さんが多く入院します。発達途中にある小児期の患者さんにとって、手術や入院がもたらす影響は様々です。一人一人の成長発達に合わせた関わりやプレパレーションを通して頑張る力を引き出せるよう、工夫しながら看護をしています。



## 外来

23の診療科があり、年間約17万人の患者さんが受診します。看護外来や、みらい支援外来を開設しており、多職種で協力し、疾患や障がいを持つ患者さんやご家族が、地域でその家族らしく生活できるよう、支援をしています。

# こども医療センターはこんなところ

## 内科系病棟

小児がんや慢性疾患の患者さんが多く入院しています。入院期間が長い患者さんも多いため、学習や遊びの時間も大切にしています。退院後の生活を見据え、必要な医療の継続と患者さんのセルフケア能力を高められるよう、ご家族と連携しながら看護をしています。



## こころの診療病棟

様々なこころや発達の状況により、身体症状や生活の困りごとなどが現れた患者さんが入院しています。日常生活全般が治療・看護となり、入院生活や他者との関わりを通して、情緒面の成長発達ができるよう、チームで協力して支援しています。

## 集中・救急医療部門

PICU・HCU1・HCU2の3つの病棟があります。高度な救急医療を担うため、多くの医療機器があり、些細な変化を見逃さない細やかな観察が求められます。集中治療の中でも、こどもらしく過ごせるように工夫しながら看護をしています。

## 管理棟



## こころの診療棟



## 総合周産期医療センター

母性病棟・MFICU病棟、NICU病棟、新生児病棟があります。母性病棟・MFICU病棟には、妊婦検診で気がかりを指摘された方や、切迫早産で治療が必要な方が入院しています。分娩室はNICUと直通エレベーターで繋がっており、出産後すぐに赤ちゃんの集中治療を始めることができます。NICUでは集中治療と両立して、家族の始まりを支えるケアにも力をいれています。状態が落ち着いた赤ちゃんは新生児病棟に移動し、家族と一緒に退院の準備を行います。



## 中央手術室

年間約3300件の手術が行われています。こどもが怖がらずに手術に臨めるよう、術前訪問でのプレパレーションや家族同伴入室、おもちゃ・DVDを活用して緊張を和らげる工夫なども行っています。

## 周産期棟



## 施設・リハビリ棟



## 施設リハビリ棟

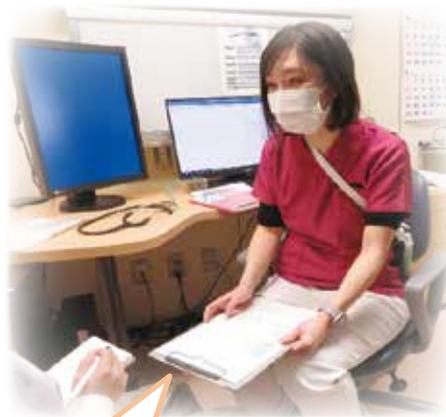
重症心身障害児施設・肢体不自由児施設があります。長期に入所するため、多職種と協働し、社会性や生活習慣を身に付ける事や、個性を大切にその子らしく生活できることを目指しています。



# こども医療センターの目指す看護

こどもにやさしい看護 それはこどもの権利が守られていること

こども医療センターを利用するこども達は、成人とは異なり、成長発達の途中で、疾患や障害を持ちます。疾患や障害は、こどもの日常生活に変化をもたらす、成長発達にも大きな影響をも与えます。こどもの権利を守るということは、疾患や障害があっても、その子らしくいられることを意味しています。私たちは、色々な職種や立場の人と連携し、こどもにやさしい看護を目指して、様々な取り組みを行っています。



こどもが笑顔でいられる  
関わりを大切にしています

内科系の学童・思春期病棟で勤務しながら、1ヶ月に1度の造血幹細胞移植後外来を担当しています。病棟勤務では、こどもにとっての最適な看護を模索し、入院中も出来る限り笑顔で楽しく過ごせるように意識して関わっています。外来では、患者さんが地域に戻った後の身体的・精神的な症状、社会的生活の困難感に対して、早期治療・介入や他職種へつなげる役割を担っています。こどもと家族の不安や苦痛が、医療チームの関わりにより改善されたとき、とてもやりがいを感じます。



5階西病棟  
看護師



## リソースナース

変化する医療現場の最前線で働く看護師たちを、専門的知識や技能で支援し、よりよい看護が提供できるよう努めています。

- 小児看護専門看護師
- がん看護専門看護師
- 精神看護専門看護師
- 家族支援専門看護師
- 皮膚・排泄ケア認定看護師
- 緩和ケア認定看護師
- がん性疼痛看護認定看護師
- 感染管理認定看護師
- 糖尿病看護認定看護師
- 新生児集中ケア認定看護師
- 手術看護認定看護師
- 小児救急看護認定看護師
- 小児プライマリケア認定看護師
- 認定遺伝カウンセラー
- NST専門療法士
- 認定小児アレルギーエドゥケーター
- 認定重症心身障害看護士
- 認定臨床輸血看護師



## リソースナースからのメッセージ

現場の看護師が支援の主役！  
縁の下の力持ちになる活動を目指して

当院は高度急性期医療を担う小児専門病院であり、どの病期であっても治療だけではなくその人の生活を支えるための看護介入が重要だと感じています。私はそんな支援者である看護師を支援したい！と思い、認定看護師を目指しました。看護師は発達段階、地域の現状等、色々な事が絡み合った課題に直面します。そんな時、現場で一緒に働いているという強みを活かし、生の声から課題をキャッチします。看護師自身の力が伸びるよう、知識や連携力を用いて介入しています。ぜひ、一緒に看護を考えましょう！



小児プライマリケア  
認定看護師

## 地域連携

退院・在宅医療支援室では、医療ケアを必要とするこどもが、スムーズに在宅へ移行できるよう、地域の病院や訪問看護、保健師などと連絡調整を担っています。病棟看護師とのカンファレンスなどから必要な支援を検討し、退院後も住み慣れた地域で、こどもと家族が安心して療養生活を継続できるよう、支援を行っています。



## 移行期支援・みらい支援外来

初めは、ご家族が中心になってこどもの病状理解や治療選択を行っていたとしても、こどもの成長に合わせて、こども自身が病気を理解し、病気と付き合いながら生活できる力を養う必要があります。成人診療科への移行支援、みらい支援外来などで、小児医療のその先に繋がるサポートをしています。

## 小児がん相談支援室

小児がんの患者・家族は、病気や治療から様々な苦痛を経験したり、難しい意思決定が必要となることもあります。こどもと家族にとってより良いQOLが得られることを目指し、多職種で連携しています。また、こどもや家族の「おはなししたいこと」にしっかりと耳を傾け、そして共に問題や悩みの解決が図れるように一緒に考えていくことに努めています。

## 緩和ケアサポートチーム

こどもと家族の「つらさ」を緩和するための、様々な取り組みをおこなっています。ファシリテイドッグ「オリ」もチームの一員で、看護師であるハンドラーとともに、ベッドサイドへ訪問したり、処置や検査・リハビリに付き添ったりします。「オリと一緒にがんばれる」と話すこども達も多くいます。



### こどもの「今を」 大切にできる看護を

がん性疼痛看護認定看護師として緩和ケア普及室で活動しています。多職種で構成されている緩和ケアサポートチームで、生命を脅かされている疾患をもつこどもの苦痛緩和をはじめ、意思決定、グリーフケアを家族、きょうだいも含めて支援をしています。病棟スタッフとともにカンファレンス等で話し合いながら、こどもの「今」を大切にできるケアに取り組んでいます。



緩和ケア普及室  
看護師

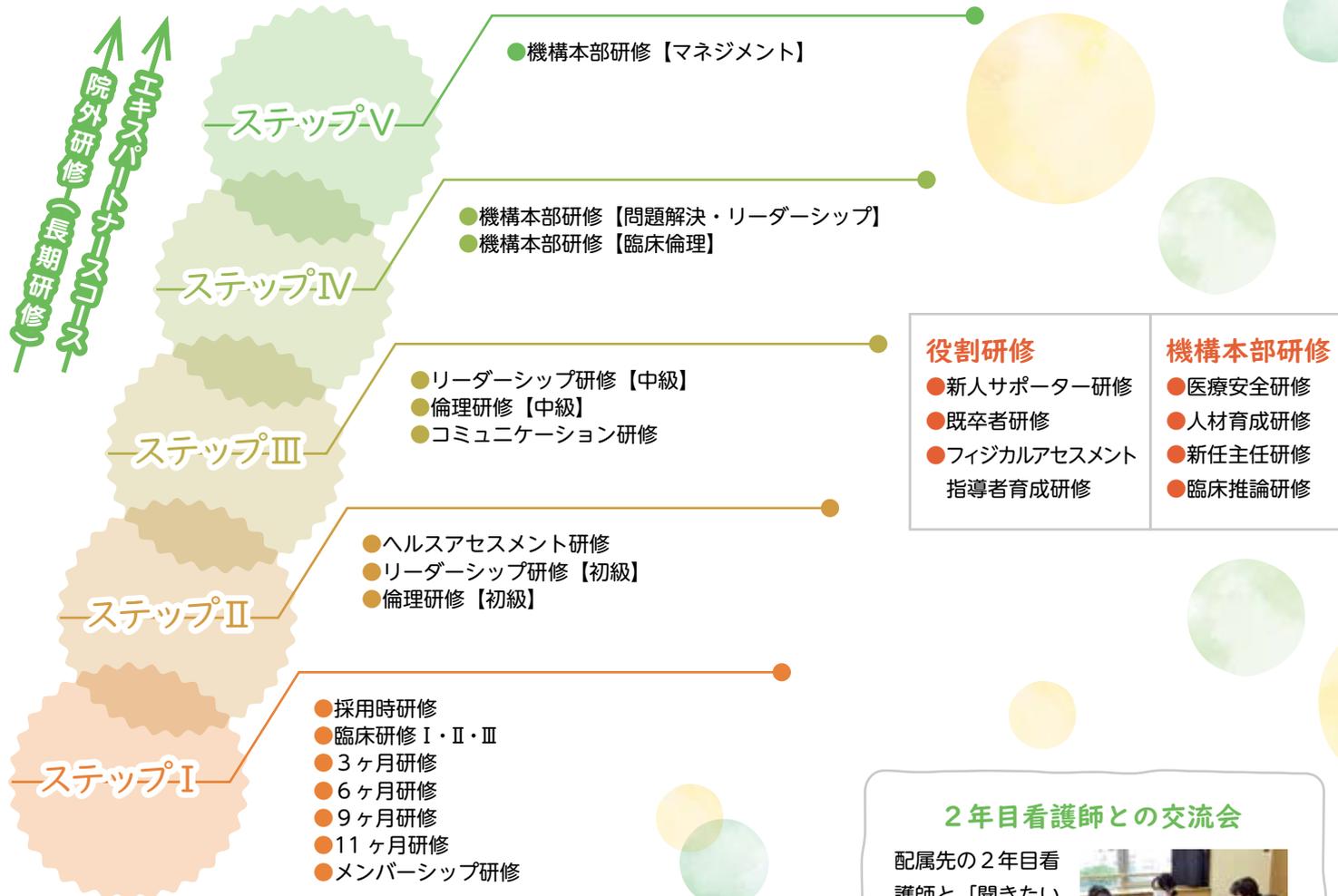
私も緩和ケア  
サポートチームの  
メンバーです



# 教育体制

幅広い視野と温かい人間性を持ち、患者の最善の利益を考えて行動することのできる看護師を育成します

## 看護師としての自己実現



## 新人看護師1年間の研修

新卒新採用看護師に対して、新人サポーターと呼ばれる先輩看護師がペアとなり、1年を通して知識・技術面や精神面のサポートをします。  
おおよそ3カ月毎の集合研修と分散研修・OJTを通して、臨床実践能力の向上と専門職業人としての成長を目指します。

### 2年目看護師との交流会

配属先の2年目看護師と「聞きたいこと」「夜勤開始に伴う心構え」など、自由に語り合います。

### 4月【採用時研修】

こども医療センターの職員として必要な知識を学びます。



### 4～9月【臨床研修】

「こどもの療養環境における安全演習」や「緊急時の対応」などについて学び、基本的な臨床実践能力の基盤をつくります。



### 7月【3ヶ月研修】

模擬事例をもとに、必要な観察、アセスメントを考えます。小児の特徴を理解して、フィジカルアセスメント能力向上と看護実践に活かすことを目指していきます。



### 新人看護師からメッセージ

#### 先輩方の支えで、 看護師として頑張っています！

はじめはわからないことだらけで、慣れない環境に不安・焦りの気持ちが大きく、日々ついていくことに精一杯でした。新人サポーターや新人教育委員の先輩方との振り返りを通して、課題についてだけでなく出来ていることを認める声掛けをして下さったことが私自身の自信につながり、今では患者さんの笑顔を見ることにやりがいを感じながら働くことが出来ています。患者さんの笑顔のためにこれからも精一杯頑張りたいと思っています。



4階東病棟  
新人看護師

### 新人サポーターからのメッセージ

#### 新人看護師と共に 成長できるサポートを

初めての新人サポーターという役割で不安もありましたが、先輩方や新人教育委員にサポートしていただきながら取り組みました。教えることの難しさを感じながらも、初めは不安でいっぱいだった新人看護師が、徐々にできることが増え、患者さんやご家族と積極的に関わる姿を見て、成長を日々感じられることに嬉しさややりがいを感じました。自分自身の知識や技術を振り返る機会にも繋がり、共に成長することができました。



4階東病棟  
新人サポーター

### 新人教育委員からのメッセージ

#### 互いに学び合う 関係性を大切にしたい

初めて医療現場で働く新人看護師には緊張や不安がつきものです。新人サポーターと連携して私達が新人看護師にとって「こころの拠り所」となり、安心して看護実践ができるよう、笑顔で子ども達と関わるができるよう支援することを心掛けています。新人看護師と会話をしていると、自分にはないフレッシュな視点を持っていたり、忘れていた初心を思い出させてくれ、とても刺激になります。子ども達の「げんき」と「えがお」のために一緒に成長していきましょう。



4階東病棟  
新人教育委員

### エキスパートナースコース受講者メッセージ

#### こども、ご家族と共に歩む看護

エキスパートナースコースの受講は、患者さんやご家族と関わっていく上での必要な視点を得たり、自分の大切にしたい看護は何かを見つめたりする貴重な機会となっています。看護研究では、解決したい課題を論理的にまとめることに難しさを感じていますが、インタビューで得た声を形にできることへの喜びや今後の小児看護へ活かすことができるのだと思うと、やり甲斐もあります。これからも、子ども達、ご家族の声に耳を傾け、共に歩むことのできる看護師でありたいです。



4階西病棟  
看護師

## KCMC小児看護エキスパートナースコース

小児看護のエキスパートを育成するためのコースを開講しています。院内研修でステップⅢ以上を取得した看護師が対象です。2年間のコースで、小児看護に関する様々な専門領域の講義を受け、看護研究にも取り組みます。コース修了者は、修了バッジをつけており、院内の各所でリーダーシップを発揮しています。



セッションで事例をとりながら、  
看護実践につなげます。

### 9月【6ヶ月研修】

3カ月研修で取り組んだ事例をもとに、観察と看護ケアを深めます。



レクでリフレッシュ!!

### 12月【9ヶ月研修】

患者・家族を尊重した看護、  
看護倫理について考えます。

### 2月【11ヶ月研修】

1年間のまとめの研修です。  
これまでの学びを通して、  
「1年間の振り返り」「私の大切にしたい看護」を話し合います。



# わたしたちが こども医療センターを選んだ理由

## その子らしさを大切に、日々患者さんと向き合い頑張っています

私はその子らしさを大切にしたい看護を提供したいと思い「一人ひとりの最善」を大切にしている当院に入職しました。こどもの小さな成長・発達や笑顔がみられることにやりがいを感じています。PICUでは集中治療を行っており、配属当初は不安と緊張でいっぱいでした。厳しい治療に向き合うこどもとご家族に何ができるのか悩み、無力感を感じることもありました。しかし、先輩方に沢山のサポートもらい自分自身の成長や看護師としてのやりがいを感じながら働くことができます。



PICU病棟 新人看護師  
2023年入職

## 患者さんに寄り添い、最善の看護を目指していきたい

私は、「自分らしいお産」の支援など患者さんに寄り添える看護体制のある環境で、自身のスキルを向上させたいと思い当院に入職しました。日々、お腹の赤ちゃんとそのお母さんが持つ不安や思いは人それぞれのため、時には悩むことがあります。しかし、患者さんからいただく言葉や笑顔に、力になることができよかったですとやりがいを感じます。自己研鑽に励む毎日ですが、患者さんに最善のケアを提供できるよう頑張っていこうと思っています。



母性・MFICU病棟 新人看護師・助産師  
2024年入職

## 患者さんとともに、成長できることにやりがいを感じています

元々他病院の小児科で働いており、より専門性の高い小児看護を学びたいと考え当院へ転職しました。こころの診療病棟に配属された当初は患者さんとの関わりに戸惑うことも多くありました。患者さんと根気強く向き合うことは大変さもありますが、患者さんと一緒に課題に向き合い成長することが出来ることにとてもやりがいを感じます。また、回復して笑顔が増えてきたり退院していく姿を見ると私も頑張ろうと思えます。



こころの診療病棟 看護師  
2024年入職(既卒)

## 看護師の一日



## アクセス 周辺環境



神奈川県立こども医療センター

公共交通機関 約1時間 車 約30分	 羽田空港
公共交通機関 約45分 車 約25分	 新横浜駅
公共交通機関 約1時間 車 約50分	 東京駅
公共交通機関 約30分 車 約20分	 横浜駅

**観光スポット**

 みなとみらい 公共交通機関 45分 車 25分	 中華街 公共交通機関 40分 車 25分	 鎌倉 公共交通機関 45分 車 40分	 ディズニーランド 公共交通機関 1時間30分 車 50分
-----------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	--

**周辺環境**

 京急弘明寺駅 バス 10分	 JR東戸塚駅 バス 17分	 スーパーマーケット 徒歩 5分	 ドラッグストア 徒歩 7分	 カフェ 徒歩 8分
----------------------	----------------------	------------------------	----------------------	------------------

### 多様な働き方の支援があります

育児と仕事の両立をしている看護師がたくさん働いています。復職支援として、産休・育児中のママの会を開催しています。

**主な育児支援制度：育児休業、育児短時間勤務制度、短時間正規職員制度、院内保育**

#### ママさんナースからのメッセージ

**2つの制度を利用しながら、  
仕事と子育てに奮闘しています**

私は、こどもが2歳11か月の時に5階南病棟へ復職しました。短時間正規職員制度と部分休業の制度を併用し、夜勤も含めて働いています。夫も夜勤をしているため、夜勤の調整依頼をしながら、病棟スタッフの協力も得て、仕事と子育ての両立に奮闘しています。子育てを通し、家族看護の大切さを実感しました。患者さんとご家族に寄り添い、最善の看護を提供できるよう、今後も働き続けていきたいと思っています。



5階南病棟  
看護師

### 看護師寮

病院に隣接した医療従事者宿舎（独身寮）があります。間取り1Kタイプ、バストイレ別。使用料月15,240円。遠方の方優先、居住期間は最大3年です。



寮 外観



寮 室内



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構  
**神奈川県立こども医療センター**

〒232-8555 横浜市南区六ツ川 2-138-4

TEL 045-711-2351 (代)

神奈川県立こども医療センター 公式サイト <https://kcmc.kanagawa-pho.jp/>



採用に関する情報はこちら

神奈川県立病院機構 看護職募集サイト

<https://kanagawa-pho.jp/kango/index.html>

